

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-319412
(43)Date of publication of application : 25.12.1989

(51)Int.Cl. A61K 7/06

(21)Application number : 01-114041 (71)Applicant : HENKEL KGAA
(22)Date of filing : 02.05.1989 (72)Inventor : MUELLER REINHARD
HOEFFKES HORST
SEIDEL KURT
WISOTZKI KLAUS-DIETER

(30)Priority

Priority number : 88 3814839 Priority date : 02.05.1988 Priority country : DE

(54) HAIR TREATMENT PREPARATION CONTAINING NATURAL COMPONENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the subject composition improving the state of combing through both of a wet and dried hair and reducing a static electric charge in the hair by including a mixture of a phospholipid originating from a natural material with an acid as an active ingredient combination.

CONSTITUTION: This hair treatment preparation containing a natural component contains (A) 0.1–20wt.%, preferably 1–3wt.% phospholipid originating from a natural component, preferably lecithin or cephalin, (B) 0.1–20wt.%, preferably 1–3wt.% inorganic acid e.g. phosphoric acid, sulfuric acid and hydrochloric acid, and/or an organic acid preferably a 1–12C acid (especially, citric acid and ascorbic acid) in weight ratio of (A:B)=(2:1)–(1:2), and further (C) 0.01–2wt.%, preferably 0.05–0.5wt.% emulsifier, preferably an emulsifier originating from a natural material (e.g. cholic acid, tannic acid and a saponin), and has pH2–6, especially 2.5–3.5.

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
⑪ 公開特許公報 (A) 平1-319412

⑤Int.Cl.⁴
A 61 K 7/06

識別記号 庁内整理番号
8314-4C

④公開 平成1年(1989)12月25日

審査請求 未請求 請求項の数 14 (全6頁)

⑥発明の名称 天然成分含有ヘアトリートメント製剤
⑦特願 平1-114041
⑧出願 平1(1989)5月2日
優先権主張 ⑨1988年5月2日⑩西ドイツ(DE)⑪P38 14 839.0
⑪発明者 ラインハルト・ミュラー
— ドイツ連邦共和国 4018 ランゲンフェルト、ゼンリーザ
⑪発明者 ホルスト・ヘフケス
— ドイツ連邦共和国 4000 デュッセルドルフ・ヘラーホ
フ、カルロ・シュミット・シュトラアセ 113番
⑪出願人 ヘンケル・コマンディ
ツトゲゼルシヤフト・
アウフ・アクチエン
— ドイツ連邦共和国 4000 デュッセルドルフ・ホルトハウ
ゼン、ヘンケルシュトラアセ 67番
⑫代理人 弁理士 青山 葵 外1名
最終頁に続く

明細書

1. 発明の名称

天然成分含有ヘアトリートメント製剤

2. 特許請求の範囲

1. 潤滑および乾燥時の櫛通りを改良し、毛髪の帶電を軽減するための酸性水性ヘアトリートメントエマルジョンであって、天然物由來のリン脂質と無機および/または有機酸との混合物を活性物質組み合わせとして含有し、更に乳化剤を含有するヘアトリートメントエマルジョン。

2. 天然物由來リン脂質0.1～20重量%、
好ましくは1～3重量%、
無機および/または有機酸0.1～20重量%、
好ましくは1～3重量%、および
好ましくは天然物由來の他の乳化剤0.1～2重
量%、好ましくは0.05～0.5重量%
を含有する請求項1記載のヘアトリートメントエ
マルジョン。

3. pH 2～6、好ましくは2.5～4.5、よ
り好ましくは2.5～3.5である請求項1または

2記載のヘアトリートメントエマルジョン。

4. リン脂質と無機および/または有機酸とを、
2:1～1:2の重量比で含有する請求項1～3の
いずれかに記載のヘアトリートメントエマルジョ
ン。

5. リン脂質がレシチン、とりわけ卵レシチン
または大豆レシチン、および/またはケファリン
である請求項1～4のいずれかに記載のヘアトリ
ートメントエマルジョン。

6. 有機酸がリン酸、硫酸および/または塩酸
である請求項1～5のいずれかに記載のヘアトリ
ートメントエマルジョン。

7. 有機酸の炭素数が1～12である請求項1
～6のいずれかに記載のヘアトリートメントエマ
ルジョン。

8. 有機酸が、酢酸、乳酸、硝石酸、クエン酸、
リンゴ酸、アスコルビン酸およびグルコン酸から
成る群から選択される可食性酸、とりわけクエン
酸またはアスコルビン酸である請求項7記載のヘ
アトリートメントエマルジョン。

9. 乳化剤がコール酸、リトコール酸、デオキシコール酸、タクロコール酸、タンニン酸、アビエチン酸、とりわけそれらのアルカリ金属塩もしくはアンモニウム塩、および／またはサボニンである請求項1～8のいずれかに記載のヘアトリートメントエマルジョン。

10. 乳化剤がコール酸塩、とりわけコール酸カリウム塩である請求項1～9のいずれかに記載のヘアトリートメントエマルジョン。

11. 増粘剤0.1～10重量%、好ましくは0.5～5重量%を含有し、クリーム状コンシステンシーを示す請求項1～10のいずれかに記載のヘアトリートメントエマルジョン。

12. 増粘剤として、多糖類、とりわけキサンタンガム、グアーガム、寒天、アルギネート、イナゴマメ粉および／またはベクチンを含有する請求項11記載のヘアトリートメントエマルジョン。

13. 保存剤を更に含有する請求項1～12のいずれかに記載のヘアトリートメントエマルジョン。

は、髪を、アフタートリートメント用活性物質(通常カチオン性界面活性剤)と他の物質との組み合わせによるアフタートリートメントに付すことである。このようなヘアアフタートリートメント製剤(通常ヘアローションまたはクリーム状エマルジョンの形態に製造されている)は、例えば西独公開特許第3417646号、特開昭59-78113号およびソビエト特許明細書第1090401号に記載されている。

しかし、前記ヘアトリートメント製剤には欠点がある。カチオン性界面活性剤は、乾燥髪の処理にしか適していないことが知られている。また、元から脂性の髪に適用すると、髪のその元来の脂性を助長するので問題である。更に、カチオン性界面活性剤は皮膚および粘膜との適合性が不充分であり得るので、ヘアトリートメント製剤中には限られた量でしか使用し得ない。

更に、通常カチオン性界面活性剤として用いられるイソアントニウム化合物は、生分解性が不充分であるので、生態学的見地から、その使用はで

14. 保存剤として、サリチル酸、ギ酸、プロピオン酸、安息香酸、ツルビン酸、ケイヒ酸、メントール、チモール、オイゲノールまたはレモングラス抽出物、とりわけ安息香酸を含有する請求項13記載のヘアトリートメントエマルジョン。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、活性物質組み合わせとして天然リン脂質および酸を含有する、水性エマルジョンの形態のヘアトリートメント製剤に関する。

[従来の技術]

今日、人間の頭髪は、シャンプー、シャワー浴用剤および浴用製剤による洗浄や、脱色、染髪または整髪といった美容上の処理のような数々の処理にさらされている。このような処理は、髪の構造に望ましくない損傷を起こすことがあり、それによってとりわけ湿潤および乾燥時の櫛通りが悪くなる。更に、そのような髪は帯電し易く、それによりヘアスタイルのセットが損なわれる。

このような問題を克服し得る一つの既知の手段

は、髪を、アフタートリートメント用活性物質(通常カチオン性界面活性剤)と他の物質との組み合わせによるアフタートリートメントに付すことである。このようなヘアアフタートリートメント製剤(通常ヘアローションまたはクリーム状エマルジョンの形態に製造されている)は、例えば西独公開特許第3417646号、特開昭59-78113号およびソビエト特許明細書第1090401号に記載されている。

[発明が解決しようとする課題]

従って、前記のような欠点無く、髪の湿潤および乾燥時の櫛通りを改良し、髪の帯電を軽減するためのヘアトリートメント製剤用活性物質組み合わせを見出す必要がある。

化学薬品に関してなされている議論の観点から、天然成分(すなわち、天然生物または非生物や人体に由来する物質)のみから成るボディケア製剤に対する消費者の需要が高まっている。

しかし、ボディケア製品中に合成化合物の代わりに天然物質を用いても、その製品の外観や使用感を悪化するようなことがあってはならない。従って、製品の形態に関しても消費者の要求を満足する、そのような活性物質組み合わせを含有するヘアトリートメント製剤を提供することも必要である。

[課題を解決するための手段]

驚くべきことに、前記のような課題は、湿潤および乾燥時の櫛通りを改良し、髪の帯電を軽減す

るための酸性水性ヘアトリートメントエマルジョン中の活性物質組み合わせとして、天然物由來のリン脂質と無機および／または有機酸との混合物を使用することによって解決されることがわかった。また、脂肪アルコール、エトキシ化界面活性剤および他の合成活性物質や、通常のワックスおよび油成分を用いなくてもよい。従って、好みしい混合物は、天然成分、すなわち天然物由來の成分のみを含有する混合物である。

多量の合成界面活性剤に加えて、リン酸エステル、クエン酸およびアミノ酸を含有するいわゆる中和シャンプーは、髪の帯電を防ぐことが知られている[例えば、コスメティクス・アンド・トイレタリーズ(Cosmetics and Toiletries)、第98巻、1983年5月、66頁参照]。

特開昭61-238718号には、エタノール水溶液中に、合成殺菌剤に加えて、天然リン化合物および／または有機酸および／またはその塩を他の成分として含有し得る、殺菌性・抗フケヘアトリートメント製剤が記載されている。

分として使用し得る。天然生物および非生物中に存在する酸を使用することが好みしい。

適当な無機酸は、例えばリン酸、硫酸および塩酸である。

有機酸うち、炭素数が1～12である酸が好みしい。特に重要なものは、生態学的に可食性の酸である。可食性酸は、通常の食物摂取において人体にプラスに作用する有機酸である。このような酸としては、酢酸、乳酸、酒石酸、クエン酸、リノブ酸、アスコルビン酸およびグルコン酸が挙げられる。クエン酸またはアスコルビン酸が特に適当である。

本発明の酸性ヘアトリートメントエマルジョンのpHは、好みしくは2～6、より好みしくは2.5～4.5に調節する。pH 2.5～3.5であるエマルジョンは特に良好な性質を示す。このようなpH値の調節は、使用する酸の種類および量によって、また要すればアルカリ金属水酸化物またはアミン(例えばトリエタノールアミン)のような塩基の追加によって達成する。調節したpH範囲にお

しかし、天然物由來のリン脂質と無機および／または有機酸との活性物質組み合わせや、その作用については、前記文献のいずれにも記載がない。

本発明によると、

天然リン脂質0.1～2.0重量%、好みしくは1～3重量%、

無機および／または有機酸0.1～2.0重量%、好みしくは1～3重量%、および

他の乳化剤0.01～2重量%、好みしくは0.05～0.5重量%

を含有するヘアトリートメントエマルジョンが好みしい。

活性物質組み合わせの成分、すなわちリン脂質と無機および／または有機酸とは、2:1～1:2の重量比でヘアトリートメントエマルジョン中に存在することが好みしい。

適当な天然リン脂質は、とりわけレシチン、例えば卵レシチンおよび大豆レシチンである。リン脂質としてケファリンを使用してもよい。

無機酸も有機酸も、活性物質組み合わせの酸成

けるエマルジョンの緩衝作用、すなわちpH安定化は、酸／塩基の組み合わせによってなし得る。

酸とは異なり、用いるリン脂質は水不溶性であるので、用いる活性物質組み合わせは透明な水溶液の形態に調製することができない。水と水溶性アルコール(例えばエタノールまたはイソプロパノール)との混合物を本発明の活性物質組み合わせのための共通の溶媒として使用するとすれば、透明な溶液を得るためにアルコールが大量に必要となり、そのアルコールは頭皮を刺激し得る。

しかし、用いるリン脂質の乳化作用は、活性物質組み合わせを水性エマルジョンの形態に調製するのに通常充分であることがわかった。

他の乳化剤の添加によって、とりわけ長期間の貯蔵のために、エマルジョンの安定性を高めることも可能である。必要に応じて、そのような乳化剤によって、エマルジョンのコンシスティンシーも調節し得る。乳化剤に関しては、天然物由來の化合物を使用することが好みしい。

既知の天然乳化剤は、例えば胆汁酸であり、そ

特開平1-319412 (4)

のうち、特にコール酸、コール酸誘導体であるデオキシコール酸およびリトコール酸並びにタウロコール酸が挙げられる。タンニン酸、アビエチン酸およびサボニンも適当な乳化剤である。

前記酸は、遊離酸として使用し得る。しかし、対応するアルカリ塩、とりわけリチウム塩、ナトリウム塩もしくはカリウム塩またはアンモニウム塩を使用することもできる。このような塩は、対応する酸と炭酸アルカリ、炭酸水素アルカリまたはアンモニアとの反応によって既知の方法で得られる。通常、塩の方が遊離酸よりも良好な乳化作用を示す。アルカリ塩のうち、リチウム塩、ナトリウム塩、カリウム塩の順に乳化力が高まる。従って、カリウム塩、とりわけコール酸カリウム塩を乳化剤として用いることが特に好ましい。

水性エマルジョンのコンシスティンシーは、いわゆる増粘剤の添加によって特に調節できることは、当業者周知である。従って、本発明のエマルジョンは、適用に適した粘度を達成するために、増粘剤0.1～1.0重量%、好ましくは0.5～5重量

ル、チモール、オイゲノールおよびレモングラス抽出物である。このような保存剤は、本発明のヘアトリートメントエマルジョン中に、通常0.1～2重量%の量で使用する。保存剤として安息香酸を使用することが特に好ましい。

本発明のエマルジョンは、当業者に知られているヘアトリートメント製剤の通常の成分を5重量%までの量で更に含有し得る。そのような成分とは、例えば、色素、香料、界面活性剤、抗酸化剤、光安定剤およびヘアコスメティック剤、例えばビタミン、植物エキス、パルサム、抗フケ剤または皮脂抑制剤、並びに油成分(好ましくは天然植物性および動物性の油および脂肪)およびワックスである。

以下の実施例によって、本発明を更に説明する。

[実施例]

第1表に示すヘアトリートメントエマルジョンを次のように調製した：

リン脂質、油および他の乳化剤を70～80°Cで溶融した。次いで、高温の水約6.5重量部に溶

%を含有し得る。20°Cにおける粘度が2.50～4,000mPas、とりわけ3,000～3,500mPasであるエマルジョンは、いわゆるヘアリングとして特に有利である。また、粘度1.0,000～100,000mPasのエマルジョンは、通常いわゆるヘアトニックとして市販されているようなヘアトリートメントエマルジョンとして用いる。

増粘剤も、天然物由来であることが好ましい。増粘剤として、例えば多糖類、とりわけキサンタンガム、グーガム、寒天、アルギメント、イナゴマメ粉および/またはベクチンを使用する。

本発明のヘアトリートメントエマルジョンが酸性に処方されていることは、その安定性に正の効果をもたらしている。更に、活性物質成分として用いる酸のあるものは、それだけで通常の使用に充分な防腐作用を有する。しかし、本発明のエマルジョン中に他の保存剤を加えてもよい。適当な保存剤は、例えばサリチル酸、ギ酸、プロピオン酸、安息香酸、ソルビン酸、ケイヒ酸、メントー

ル、チモール、オイゲノールおよびレモングラス抽出物である。このように保存剤は、本発明のヘアトリートメントエマルジョン中に、通常0.1～2重量%の量で使用する。保存剤として安息香酸を使用することが特に好ましい。

解した保存剤を、よく搅拌しながら加えた。よく搅拌しながら混合物を約45°Cに冷却後、増粘剤を、残部の水と共に水性塊の形態で加えた。いずれの場合も、薄黄色の微細なエマルジョンが生成した。実施例1および2においては、適量のトリエタノールアミンの添加によって、エマルジョンを所望のpHに調節した。

第1表に示す粘度値は、B型RVF粘度計(スピンドル4、20回転/分)を用いて測定した。

第 1 表

実施例	1	2	3	4	5	6	7	8	9
成分(重量部)									
リン脂質									
大豆レシチン	1.7	1.7	2.5	4.0	1.7	—	1.7	1.68	2.5
卵レシチン	—	—	—	—	—	1.7	—	—	—
酸									
クエン酸	1.7	1.7	1.7	4.0	2.4	1.7	—	—	—
乳酸	—	—	—	—	—	—	—	—	1.7
リンゴ酸	—	—	—	—	—	—	1.7	—	—
リン酸	—	—	—	—	—	—	—	1.68	—
乳化剤									
コール酸Na塩	0.1	0.1	—	—	—	0.1	—	0.1	—
コール酸K塩	—	—	—	—	0.1	—	—	—	—
コール酸	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5
サボニン	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—
タウロコール酸Na塩	—	—	—	0.2	—	—	—	—	—
デオキシンフル酸	—	—	—	—	—	—	0.1	—	—
増粘剤									
キサンタンガム	1.0	1.0	1.0	1.0	—	1.0	1.0	1.0	1.0
アルギン酸Na	—	—	—	—	3.5	—	—	—	—
保存剤									
安息香酸	0.5	0.5	0.4	—	0.5	0.3	0.3	0.5	0.4
ソルビン酸	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—
水	95	95	93.9	90.4	90.2	95.2	95.2	95.04	93.9
トリエタノールアミン	pH5.9に	pH4.1に	—	—	—	—	—	—	—
グルコース	—	—	—	—	2.0	—	—	—	—
pH	5.9	4.1	3.2	3.0	3.1	2.4	2.5	2.0	2.9
20°Cにおける粘度(mPas)	—	—	3000	3500	3950	3500	3650	3850	4600

実施例 1 のエマルジョンで処理した髪は、潤滑および乾燥時の櫛通りが充分で、櫛電が少し軽減された。

実施例 2 のエマルジョンで髪を処理すると、潤滑および乾燥時の櫛通りが良好となり、かつ滑電が顕著に軽減された。実施例 3 ~ 9 のエマルジョンで処理した髪の潤滑および乾燥時の櫛通りは非常に良好であり、実質的に滑電を示さなかった。

特許出願人 ヘンケル・コマンディットゲゼル

シャフト・アウフ・アクチエン

代 理 人 弁理士 背山 保 ほか 1 名

第1頁の続き

⑦発明者 クルト・ザイデル ドイツ連邦共和国 4000 デュッセルドルフ 13、ノスト
ツフエンシュトラアセ 59番

⑦発明者 クラウス-ディータ
ー・ヴィゾツキー ドイツ連邦共和国 4006 エルクラート 2、ヴァーネ
ン、ミューレ 4番

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成9年(1997)3月25日

【公開番号】特開平1-319412

【公開日】平成1年(1989)12月25日

【年通号数】公開特許公報1-3195

【出願番号】特願平1-114041

【国際特許分類第6版】

A61K 7/06

【F I】

A61K 7/06

8615-40

手続補正書

平成8年5月1日



特許庁長官認

1. 事件の表示

平成01年特許願第114041号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 ハンケル・コマンティットグビルシャフト・アクチエン

3. 代理人

住所 〒540
大阪府大阪市中央区城見1丁目8番7号 1MPビル
青山特許事務所
電話(06)549-1261
FAX(06)549-0361

氏名 井澤士 (6214) 青山 基



4. 補正命令の日付

白丸 (出願審査請求と同時)

5. 補正の対象

明細書の特許請求の範囲の欄および明細の詳細を説明の欄

6. 補正の内容

明細書中、次の箇所を補正します。

I. 特許請求の範囲の欄

別紙の通り。

II. 明細の詳細な説明の欄

(1) 第12頁第11行、「寒点」とあるを、「寒天」と訂正。

(2) 第13頁第14行の後に改行して、以下の文章を挿入:

「本発明の好ましい実様を次に示す。

1. 天然物由来リソルブ質0.1~20重量%、好ましくは1~3重量%、無機および/または有機酸0.1~20重量%、好ましくは1~3重量%、および

好ましくは天然物由来の性の乳化剤0.01~2重量%、好ましくは0.05~0.5重量%

を含有する請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

2. pH2~6、好ましくは2.5~4.5、より好ましくは2.5~3.5である請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

3. リン脂質が無機および/または有機酸とを、2:1~1:2の重量比で含有する請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

4. リン脂質がレシチン、とりわけ卵レシチンまたは大豆レシチン、および/またはケファリンである請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

5. 脂酸酸がリン酸、硬脂および/または油酸である請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

6. 各種酸の炭素数が1~12である請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

7. 有機酸が、酢酸、乳酸、酒石酸、クエン酸、リノール酸、アスコルビン酸およびグリコル酸から成る解から選択される可食性酸、とりわけクエン酸またはアスコルビン酸である上記第6項記載のヘアトリートメントエマルジョン。

8. 乳化剤がコール酸、リノール酸、デオキシコール酸、タウロコール酸、

タンニン酸、アビエチン酸、とりわけそれらのアルカリ金属塩もしくはアンモニウム塩、および／またはサボニンである請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

9. 乳化剤がコール酸塩、とりわけコール酸カリウム塩である上記第8項記載のヘアトリートメントエマルジョン。

10. 増粘剤0.1～1.0重量%、好ましくは0.5～5重量%を含有し、クリーム状コンステンシーを示す請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

11. 増粘剤として、多糖類、とりわけキサンタンガム、ゲーガム、寒天、アルギネート、イナゴマメ粉および／またはベクチンを含有する上記第10項記載のヘアトリートメントエマルジョン。

12. 保存剤を更に含有する請求項1記載のヘアトリートメントエマルジョン。

13. 保存剤として、サリチル酸、ギ酸、プロピオン酸、安息香酸、ソルビン酸、ケイヒ酸、メントール、チモール、オイゲノールまたはレモングラス抽出物、とりわけ安息香酸を含有する上記第1-2項記載のヘアトリートメントエマルジョン。」。

以上

(別紙)

特許請求の範囲

1. 脱脂および乾燥時の梳過りを改善し、毛髪の荷電を軽減するための酸性水性ヘアトリートメントエマルジョンであって、天然物由来のリン脂質と無機および／または有機酸との混合物を活性物質詰み合わせとして含有し、更に乳化剤を含有するヘアトリートメントエマルジョン。